

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	1 キリスト教主義教育 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	1.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。	
要素		
小項目	1.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1)方針、実施内容	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. ミッションステートメントを基本とする学院のキリスト教主義教育の理念の具体的プログラム化	→キリスト教主義教育を具体化するプログラム企画を整理し、年間を通じての開催計画を明示し、チャペルアワーなども含めて、ほぼ日常的にそれが実施される体制を確保する。	B
2. ミッションステートメントを軸とするキリスト教主義理解の学院構成員への浸透	→キリスト教主義理解を提供するプログラムへの参加者数を把握し、学院構成員の半数を超える出席者が得られるよう、奨励する。	C
3. キリスト教主義教育の成果として、Mastery for Serviceを体現しうる存在としての具体的な行動への奨励	→Mastery for Serviceを体現するモデルとなる存在などを積極的に紹介するとともに、その範に従った学院構成員の活動を積極的に顕彰し、学院としてその活動の全体を把握する体制を整える。	B
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

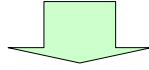
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目1.0.1	(現状説明) 教育課程には、各学部でキリスト教科目が必修科目として設定され、すべての学生がキリスト教の基本的知識・理解を学ぶ体制が整えられている。また、各学部で実施されるチャペル、また全学でおこなわれる各種キリスト教行事を通し、キリスト教的な世界観・人間観により深く触れると共に、これにもとづいた建学の理念及び学院・大学の伝統・歴史を自覚する機会が備えられている。とくに定例のチャペル(10時35分からの30分)は、11学部で週40回弱が実施され、量質ともにキリスト教主義をささえる重要なプログラムであると同時に、本学のキリスト教主義教育の特長ともなっている。チャペルの運営は、学部宗教主事の努力はもちろんであるが、教員また職員の協力によってはじめて可能である。このような運営に多くの教職員が参与することが、また学生にとどまらず広く大学全体におけるキリスト教主義教育への理解を涵養するために重要な意味をもっている。また、現在、6名の宣教師がおかれ、英語で実施されるチャペルなど独自プログラムを通じてさらにキリスト教行事を豊かにしている。これらチャペル・キリスト教行事の効果を測る手段について、出席人数の把握、出席学生が記載するコメント票をあつめるほかは実施できておらず、今後の検討にゆだねたい。
☆ 小項目1.0.2	(現状説明) 全学のキリスト教関連諸行事は、大学宗教主事をコンビーナとする大学宗教主事会で行っている。各学部でのチャペル運営については各学部の宗教主事が責任者であるが、全体の調整・情報交換は大学宗教主事会で行っている。新基本構想にもとづいた新中期計画(法人・大学)が策定され、キリスト教主義教育についても、建学の精神の浸透・展開に寄与することが期待されているので、2010年4月以降、大学宗教主事会において対応を検討する準備をしている。また、建学の精神をより明確に示し、それにもとづいた教育を行うという課題については、新中期計画(法人・大学)で設置された、ミッション推進委員会に、学長補佐・大学宗教主事がくわわり、学院と調整をしながら、キリスト教主義にもとづいた本学の教育を内実化するための具体的な方策を準備・検討している。
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目1.0.1	
★ 小項目1.0.2	2009年度のあらたな取り組みとして学長室が実施主体となり、「《学生による企画》の公募～あなたが実践するMastery for Serviceを支援します～」を募集した。その趣旨は、建学の精神にかなう学生の活動を支援すると共に、その活動を広報して、本学の教育が目指すところを学生の主体的な活動を通して学内外に示すことであった。この公募には71件の応募があり、19件が採択・実施されている。
その他	



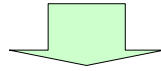
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目1.0.1	
★ 小項目1.0.2	2010年度も引きつづき、同じ募集を行い、建学の精神を体現する学生の活動を奨励する。
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目1.0.1	
★ 小項目1.0.2	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目1.0.1	
★ 小項目1.0.2	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

#### 【学外委員】

- 必修のキリスト教科目やチャペル・アワーを通じて、関西学院の建学の理念などを教育することは積極的に推進すべきものであり評価できます。また、大学宗教主事会の役割は重要であり関係の委員会とも協力して今後の具体策の準備検討が期待されます。
- 外部者には「チャペル」だけでは分かりづらいと思います。また、「チャペルアワー」と混在していますので整理いただけるとと思います。
- どれだけの学生がチャペルに出ているのでしょうか。

#### 【学内委員】

- 「指標」は、より具体的に修正していく（企画目標数、参加者目標数など）ことを検討してください。
- 学生による企画は現状説明の小項目1.0.2の中で書き込んでも良いと思われます。大振りな組織活動は重要であることは言うまでもありませんが、地道な活動にその意義を見いだす必要があるのではないのでしょうか。
- 小項目1.0.1は組織・体制について、小項目1.0.2は実施について問われています。現状説明において、実施内容を明示しなければ組織・体制について説明しにくいことは理解できますが、小項目で問われていることについて少し整理し説明していただければと思います。
- 2008年度の自己点検・評価においても触れていますが、キリスト教主義教育の成果を測定するための指標を採用すべきか難しい問題ですが、施策の効果を測らなければ評価が出来ません。これに関しての記述が望まれます。
- 目標1.3についての進捗評価は「B」ですが、現状説明においてこれらについて記述を加えていただければなおわかり易い現状説明になると思います。
- 効果が上がっている事項の小項目1.0.2に記述されていることも現状説明に加えてください。（次年度に向けた方策（1）の記述位置が違っているのではないのでしょうか）
- 現状説明で課題が記述されています。改善すべき事項に記述してください。その他改善すべき事項はないのでしょうか。

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★

注記) チャペルアワーは関西学院創立以来、継続されてきたプログラムであり、大学では、第1時限と第2時限の間がそのための時間枠とされている。各学部で、それぞれ工夫をこらしたチャペルプログラムが実施されており、また、大学全体、複数学部合同でチャペル行事が行われることもある。定例のチャペルプログラムはプロテスタント教会の礼拝形式に準じて行われますが、決してキリスト教の信仰を各人に強いるものではない。

### Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

1.0.0.S1	在学生のうち、キリスト教主義教育について、関西学院でキリスト教に触れることで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けていると思う人の比率
1.0.0.S2	卒業生のうち、大学時代にキリスト教関連科目やチャペルで学んだことや経験が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
1.0.0.S3	チャペルの種別と開催回数
1.0.0.S4	宗教センターの活動実績
1.0.0.S5	卒業生のうち、関西学院でキリスト教に触れたことで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けたと思う人の比率
1.0.0.S6	在学生のチャペルへの出席頻度
1.0.0.S7	在学生のうち、キリスト教主義教育について、チャペルに出席したことが自分にとって有意義だったと思う人の比率

<個別的な指標>
